［資料翻訳］W. E. L. Keeling 編纂『横浜、東京、、、京都へのツーリストガイド』（1880）の京都記述部分

A Japanese Translation of the Section about Kyoto : *Tourists' Guide to Yokohama, Tokio, Hakone, Fujiyama, Kamakura, Yokoska, Kanozan, Narita, Nikko, Kioto, Osaka,* Compiled by W. E. L. Keeling（1880）

Chiyoma Izumi
千代間　泉

解　　題

本資料翻訳は、1880（明治 13）年に刊行された W. E. L. Keeling 編纂による *Tourists' Guide*（以下 TG）の序文、京都（奈良を含む）、琵琶湖の記述部分のみを英語から日本語に訳したものである。TG は明治維新後初の、英国人によって日本で出版された、日本観光ガイドブックである。本翻訳は、'Tourists' guide to Yokohama, Tokio, Hakone, Fujiyama, Kamakura, Yokoska, Kanozan, Narita, Nikko, Kioto, Osaka, Etc. etc., together with Useful Hints, Flossary, Money, Distances, Roads, Festivals, Etc,, Etc., compiled by W. E. L. Keeling, MA. Tokio : 1880. Sargent : Farsari & Co., Sole Agents, Yokohama.'[1] を使用した。ページ数は広告を除き 92 ページあり、寸法は 17.3×11.3 cm と、旅行中に持ち運びしやすいサイズのガイドブックである。関西方面では大阪が 1 ページ余り、琵琶湖が 1 ページ弱であるが、奈良を含む京都が 14 ページ余りにわたり、大きく取り上げられた。

明治維新後の京都国際観光の始まりは、1872（明治 5）年の第 1 回京都博覧会であった。「実に本邦博覧会の嚆矢」[2] であった京都博覧会の第 2 回開催に間に合うように、山本覚馬著丹羽圭介制作の英文『京都とその近郊の名所案内』[3]（1873）（以下覚馬名所案内）は制作された。覚馬名所案内の制作背景と改訂については拙稿（2020

b）を参照されたい。TG は覚馬名所案内初版の 7 年後に刊行された日本ガイドブックである。

TG の編纂者 W. E. L. Keeling については明治期の旅行記、ガイドブック等に詳しい伊藤久子（2009）の論考にある。伊藤が示した『資料御雇外国人』の記録によると、氏名は Keeling, Wallace Edward Lloyd、国籍は英国、職種は教師、英学化学教師、英学教師等であった。「明治 6 年当時 25 歳（ユネスコ東アジア文化研究センター、1975 : 253-254）」の来日であった。1880（明治 13）年以降のキーリングの行方については書かれていない。TG は好評を博し、表題、編纂者、出版社を変えて、1890 年刊行の改版増補第 4 版 2 刷 *Keeling's Guide to Japan*[4]（以下 KG）まで確認できる。

TG の京都記述部分の魅力は、編纂者 Keeling が京都に好感をもち、京都の当時の様子を興味深く、西洋人の主観に沿って生き生きと描いたところである。なによりも国際観光の時代背景として、覚馬名所案内では 'visitor'、TG のタイトルは 'tourist' とあるように、京都博覧会の「参観者、訪問者」から TG では「観光客」への変化が確認できる、当時の国際観光の様子を知ることのできる重要な史料の 1 つである。

なお本資料翻訳を用いて、覚馬名所案内との比較考察を行い、覚馬名所案内を含む京都側から提示された既存の京都観光名所、また鎖国以前と鎖国中の西洋人観光の定番名所が、西洋人観光客によってどのように取捨選択され、付加価値がついて新観光名所や観光行動が展開したのかについて、今後の研究に役立てる予定である。

凡　　例

1．外国人名は、アルファベット表記とし、その後名字はカタカナ表記とした。数字はローマ数字とした。
2．年号は西暦で表記し、必要のある時には西暦（和暦）年とした。
3．筆者の英語から日本語への翻訳については、英語原文を示した方が良い場合は脚注に原文を提示した。原文で書かれた固有名詞が日本語では不明なものは英語のまま本文に示した。
4．説明が必要な箇所については、脚注に示した。
5．原文中に内容に関する間違いや不適切な人道上の表現がある場合においてもそのまま訳した。
6．個々の京都名所の前の数字は、筆者が便宜上登場順につけた。

7．長さ、面積の単位は（　）内に日本で現在採用されている単位に換算して示した。1 町は約 109.09 メートル、1 里は 3.93 キロメートル、1 フィートは約 0.3048 メートル、1 エーカーは 4046.856 平方メートル等である。

ＴＧ序文

何が日本の見どころですか？　どうすれば見られますか？　どのような行き方が最良でしょうか？　数日間の滞在なので、できる限り有意義に過ごしたいのです。

私は海外からお越しの方々から、日本旅行中の楽しみ方や賢い旅行の仕方について、多くの質問を受けます。このような質問に対して、すぐに役立つヒントをたくさん提供することが、この小さな本を編纂した私の慎ましい目的です。

横浜案内、東京案内、京都案内[5]という素晴らしいガイドブックがすでにあります。しかし都市別のガイドブックを何冊も抱えることの良さを、値段や便利さの面で考えると、小さくまとまった 1 冊の方が勝っていることは間違いありません。

この本は日本全国を全て紹介していません。もしすべてを書き込むと大量の情報になってしまいます。私は数日間しか旅行に時間を割けない方に、色々な名所を訪問する最良の方法を示したいと思います。

この本では、美しい名所や素晴らしい風景についての詳細な記述は避けました。というのはどこに行くべきか、何を観るべきかという価値ある情報を旅行者の方に伝えれば、他のガイドブックからの助け無しに、素晴らしい自然や建造物[6]を楽しむことができます。また時間が貴重な旅人のために、簡潔で良心的に書くことを心掛け、使いやすいようにしました。

この小さい[7]ガイドブックを旅行の友として皆様がより楽しい旅をされますように、というのが心からの著者の願いです。

東京、

1880 年 2 月。

京　　都[8]

この街の寺社仏閣や宮殿は最も美しく、魅力に富んだ光景であふれています。京都の街は快適で、心地よい雰囲気とこの国を旅行する楽しさが感じられます。京都は、行ってよかったと称賛される琵琶湖への小旅行ができる圏内にあります。西京[9]と呼

ばれるこの街は、793 年から帝が遷都し首都を東京に定めた 20 数年前の内乱の後まで首都でした。京都は山背国に位置し、多くの美しい風景に囲まれています。

京都の人口と重要性を示すための誇張された随分昔の統計[10] では、京都には 100 万世帯と 200 万人の人口[11] があり、その中には、100 の神社[12] に奉職する 300 人の神主、仏教では 250 の寺に 15,000 人の仏教の僧侶、そして 7,500 人もの花柳界で働く女性[13] が含まれています[14]。

日本の歴史において、天子である天皇たちは、王位に就くごとに首都を変えました。しかし第 50 代天子[15] である桓武天皇[16] は、大納言小黒麻呂と左大臣紀古佐美に山背の地を探索するよう命じました。天子は永続的に続く首都を設立しようとしており、それに相応しい場所が選ばれました。大納言らは宇太村を進言し、結果として宮殿はその地に建てられました。宮殿の城壁は民衆の家々を含み大変広範囲にめぐらされました。歴史上この宮殿だけでも 200 エーカー（約 809,371 平方メートル[17]）以上を擁する大変広い敷地であったと言われています。1334 年後醍醐天皇によって御所[18] が建設され、1653 年豊太閤時代の後、御所の大部分を火事で焼失しました。京都は現在までに、11 回猛火にあい都市の大部分を失いました。最大の火事は 1846 年で、500 エーカー（約 2,023 平方メートル）にも及ぶ範囲の建物が失われました。京都は粟田焼または七宝焼[19] といわれる美しい磁器、漆塗製品、銅製品、絹、ちりめん、刺繍製品、扇などの特産品があり、大変有名です[20]。

京都へは、三菱や他の蒸気船を利用して神戸に向かう方法があり、航海は約 36 時間かかります。神戸から京都までは列車を利用します。または陸路を取ると東海道を歩きますが、この方が良く使われます。というのはこの国を見聞する機会が多いからです。行程とお薦めのホテルの名を下に示します。

横浜から

(中略[21])

京都

合計　126 里 4 町（約 495.8 キロメートル）

まず京都に到着したら、まっすぐに外国人用のホテル地区がある円山に入ってください。最も快適なホテルは自由亭[22] と也阿弥[23] です。円山ではガイド（案内者[24]）はいつでも手配できます。人力車は 1 日当たり 50 銭で雇えます。車夫を 2 人雇うなら

1 円になります。眺めの良い場所でこれからの具体的な予定をたてるなら、円山の背後にある将軍塚に上るべきでしょう。将軍塚への道は、人が通れるように整備されているので全く問題なく登れます[25]。途中、知恩院の本堂と大鐘を通り過ぎます。山頂からは京都の市街とその周辺が、美しい鳥瞰図のように見られます。右手にある白い壁の城は京都府庁、北西には丘があり、その一番高い所は愛宕山、京都で最も有名な庭園をもつ金閣寺があります。同じ方向に、京都博覧会が開催されている御所と大宮御所、裁判所などがあります。複数の橋が鴨川にかかっています。鴨川は北山から始まり、京都市街を縦断しています。川は豪雨の時以外水量は少ないです。多数の西洋風の建築物がみえます。鴨川の西側の堤防には、舎密局[26]、染殿[27]、石鹸製造所[28] があります。舎密局は多分上部に小さな白い塔がある建物です。その南には集産場[29]、織殿[30] が見えます。北東には大文字山と比叡山が見えます。将軍塚の北のすぐ見える所にあるのは、黒谷という葬送地で塔が建っています。四条周辺に再度目を戻して、西南西に目をやると、日本で一番有名な西本願寺が見えます。同じ方角に鉄道と京都駅、東寺の塔がみえます。東寺は、東京[31] を訪問する中国人や朝鮮半島の大使たちをもてなす場所でした。南西には大阪造幣局の煙突が見える時もあります。南東には茶で有名な宇治があります。

京都では観光客向けの娯楽に事欠きません。劇場は数か所あり、その時々見応えある舞台を鑑賞することができます。これらの音楽や踊りは魅惑的でお薦めですし、その一つには能と呼ばれる古代オペラもあります。コメディ、道化もの、悲劇ものが観劇する人々を魅了してきました。食事は多くの外国人旅行客が友人同士で、芸舞妓がお客をもてなす宴会で楽しみます。京都には祭と呼ぶ沢山の祭礼がほぼ毎日あります。毎年 8 月 16 日の「盆[32]」祭の終わりに、京都を取り囲む丘に火がともされます。送り火にはそれぞれ異なる意匠が表されています。‘*okuru*’ とは心を向ける[33]、‘*hi*’ は火の意味をもっています。送り火の始めは、大きな字と言う意味の大文字で、京都の街の北東にあります。西方には ‘*Ichiwa*’[34] という地区の、始めの一文字を表す文字があります。北の丘には「妙」と「法」があります。次に、左大文字は大文字とほぼ逆さ文字としてあります。西山には門である鳥居[35] があります。しかし最も美しいのは、舟と呼ばれる舟形です。将軍塚からの眺望、また市街のどこからでも見られます。

京都の地勢がわかったので、以下に挙げた名所観光はもっと楽しくなりますよ。

1. 建仁寺

この建物は源頼家[36]が約600年前に建立した寺で、縄手[37]通に面した地区にあります。この寺は1872年に開催された博覧会会場の1つでした。良く養生された芝生、立派な木立があり心地よい日陰を作っています。ある伝説で有名な大鐘[38]が、境内の東側に吊るされています。建仁寺の多数の芸妓[39]が養蚕に従事しています[40]。

2. 大仏[41]

京都での主要な見どころの1つです。大仏は方広寺とも言われ、1587年に今は太閤様として祀られる豊臣秀吉が建立しました。この建物には28年前に据え付けられた盧舎那仏という名の像があります。仏像は最初木造でした。160フィート[42]はあったと聞きました[43]。この像が作られた数年後の大地震で、仏像は木片となって壊れ多くの人々が亡くなりました。信濃の圓光寺の像が代りに据えられました。1603年には、63フィート[44]の高さの銅像と取り換えられました。その後しばらくして寺は焼失し、太閤様の次男右大臣秀頼が再建しました。秀頼はまた、高さ24フィート[45]、厚さ12インチ[46]の銅の大鐘を作らせました。1648年に家綱はお金が必要となり、銅像を溶かして貨幣にするよう命じました。「文」[47]という文字からそのことがわかります。銅像の代りに木像が代用されましたが、これもまた災難にあう運命でした。約82年前に雷が原因で倒壊したのです。

3. 八坂塔

日本の仏塔建築の最古の塔として有名です。聖徳太子が建立しました。当初の塔は倒壊し、現在の塔は将軍源頼朝が再建しました。現在の塔は264年前、有名な徳川家康の息子である将軍秀忠によって再建されました。高さ120フィートで内部は豪華な木組みとなっています。最上階からは素晴らしい眺望がみられます。仏教信仰のための塔です。

4. 高台寺

八坂塔の近くにあり260年前近くに豊臣秀吉の妻によって建立されました。隣接した建物は、秀吉の命によって建てられ唐傘亭[48]と名付けられました。現在は唐傘御亭[49]として一般的に知られています。

5. 三十三間堂

蓮華王院ともいわれる三十三間堂は、大仏の近所にあります。1162年に建立され、千手観音（千の手を持つ神）[50]を奉じています。これらの像は全部で33,333体[51]ある

と思われます。最大の像は、高さ 8 フィート[52] の千手観音坐像です。かつて寺の西側には弓道場があり、星野勘左衛門と和佐大八郎が巧みな射手として有名でした。5 月には寺に隣接する建物の前の浅い池[53] にカキツバタ[54] が咲くので、それを楽しみにした人々で賑わいます。

6. 清水寺

清水寺は数千人[55] もの参拝者たちや観光客が訪れる、楽しく絵のように美しい[56] 風景の見られる場所です。石段が続いたのち良く舗装された道路を上り、観光客は 798 年建立の、女神[57] である十一面観音を頂く音羽山清水寺[58] の扉の前に到着します。本堂（寺の正門）の前には、沢山の絵馬が掲げられています。息災を願い[59] 弓道や乗馬の上達を願う絵馬などがあります。良き伴侶を探す未婚の男女が訪れる小さな神社[60] が本堂の南東にあり、真の恋人たちの守護聖人である縁結びの神が祀られています。その神社の前の格子に紙を結び付けます。効果があるように紙を結ぶには、同じ手の親指と小指を使って[61] 結ばなければなりません。清水寺の周辺には陶器を商う店が多数あり、最上の陶器や磁器を購入できます。

7. 西大谷

西大谷は京都において最も興味深い場所の一つです。境内は大変古く、西本願寺の墓所として使用されました。1709 年頃再建され、その後再び修繕されました。唐門と呼ばれる優雅な入口は、旅行者[62] にとって鑑賞する価値があります。その門から敷石の小道を行くと眼鏡橋[63] です。この橋はハスで覆われた広い池にかかり、その両端にはサクラの木々が植わっています。サクラが満開の時の光景は本当に素晴らしい景色です。

8. 明暗寺[64]

普賢菩薩と中国の僧、達磨大師を祀り建立されました。この寺の僧侶は全て公家の息子たちで、帝のいる宮廷に属しており、‘Moudushiki’[65] という僧位が授けられています。色々な地方で乞食を行う虚無僧[66] は、皆この寺の出身です。かごのような形の帽子（天蓋）を被る許可を得るために、この寺の僧に使用料を支払います。

9. 耳塚（耳の墓）

小西摂津守と加藤肥後守という 2 人の武将は、6 万人の兵士を率いて朝鮮を攻撃しました。多数の敵軍の兵士を捕らえ、耳をそいだ後、戦利品としてこの墓に埋めたのが名前の由来です。

10. 東本願寺

この寺は西の郊外にあります。最も裕福と思われる仏教の宗派の 1 つである一向宗または門徒宗に属しています。布教のため宣教師としてヨーロッパやアメリカに有能な僧侶を、18 人から 20 人ほど送ろうとしています。この目的のために英語学校が設立され、多数の僧侶が上海に最近創設された寺に送られました[67]。寺には以前美しい建物がありましたが、1864 年の内戦で大火となり、有名な門 3 基を含めて建物は焼失しました。

11. 西本願寺

門徒宗に属しており、日本で最大でかつ最も立派な寺です。塀に囲まれた境内の南側には、精巧に組立てられ素晴らしい彫刻が施された勅使門があります。有名な左利きの芸術家、左甚五郎がデザインしました。勅使門の扉は、天皇や勅使が訪れた時のみ開かれます。装飾や彫刻の素晴らしい建物と、興味深い歴史的価値のある多数の仏像が建物内にあります。

西本願寺では、こういった所にありがちな大火事が起こっていない、と僧侶たちは主張します。というのは本堂の前には有名な古いイチョウの木が植わっており、お寺を守っているのです。大火が起こると、イチョウが水を吐き出し消火すると言われています。本堂の背後にある塀の外の屋敷では、数年前に博覧会が開かれました。

12. 東寺

東寺の塔と寺は街の南端にあります。252 年前に将軍徳川家光によって建立されました。塔は高さ 164 フィート（約 50 メートル）あり、敷地は 30 平方フィート（約 2.8 平方メートル）、5 階建てです。

13. 神泉苑（聖なる泉の庭[68]）

1000 年前に善女龍王のための社と塔が創建され、大日如来を祀っています。数年前まで塔はこの境内にありましたが、老朽化のため壊されました。650 年もの間、神泉苑は京都で最も美しい場所の一つでした。

14. 愛宕権現

京都西部の山で最も標高の高い愛宕山頂にあります。1037 年前に慶悛僧都[69] が創建しました。イザナミ[70] とホノムスビノミコト[71] が祀られました。日本仏教の父といわれる聖徳太子の師である‘Nichira’も祀られていました。しかし現在その像は外されました。純粋な神道崇拝には相いれられないからです。

15. 御室御所

御室御所の本堂は約 700 年前に建てられました。そして創建から今上天皇に至るまで、皇室関係の人々が居住し続けました。現在の帝も、東京に出発するまでここに住んでいました。のちにとても荒廃し、以前の栄華はほんの少ししか残っていません。謁見室と帝の寝室がある部屋はとても暗く、寝室は扉がしまった状態では全くの暗闇の中です。御室御所は初回の博覧会期間中に一般公開されました。以前はあえて見学したいと思わなかった場所ですが、帝の聖なる場所を参観できるということで、数千人の人々が来場し、好奇心を満足させました。金岡という芸術家が壁に描いた馬の絵が本物のようであったので、その馬は本当の生命を授かったという逸話が残されています。

16. 衣笠山（絹の帽子の山）[72]

宇多天皇は退位後、夏に雪が見たいという奇妙な空想をしました。その夢は実現できず、天皇は白い絹布で丘の頂上を覆おうとしました。その頂上は「笠」と呼ばれるつばの広い帽子のようでした。

17. 金閣寺（金で覆われた寺）[73]

衣笠山のふもとにあり、特に木々や花々がよく手入れされ見事に成長している美しい配置の庭園があり、京都近郊の最も魅力的な名所の一つです。境内の中央に位置する寺は、約 500 年前に建立された将軍（足利）義満の夏の邸宅でした。拝観料は 1 人 2,5 銭[74] を本堂の入口で支払います。その寺の案内役（少額のチップを期待している）[75] は義満が沐浴や歯磨きをした場所や、茶を点てるための取水口といった史跡を案内します。滝の上の平地になった所には小沼があり、小さい島があります。古代ここに有名な白蛇が住んでいたそうで、それを伝える記念碑が建てられました。

18. 西陣

北野天神の近くにあるのが西陣です。絹、ベルベット、刺繍製品などは大変有名で日本では最高品質の輸出品として大いに知られています。安値で取引される海外製品に押されて、現在は貿易で伸び悩んでいます。

19. 上賀茂

賀茂川の堤沿いに位置するこの神社[76] には、夏の間納涼のために神社を取り巻く美しい木々のもとに人々が集います。競馬[77] がこの神社の前で毎年 5 月 5 日に行われます。同月 1 日には、馬たちの予行演習があります。競馬の起こりは文徳天皇の皇子で

あった惟喬親王、惟仁親王の王位を賭けた闘いでした。文徳天皇[78]は皇太子を 1 人だけ後継に推す訳にいかなかったので、馬で競わせて皇位継承争いに終止符を打とうとました。惟仁親王[79]が勝ち、後継者と定められました。

20. 修学院

帝のために作られた美しい庭と茶室があります。立派なサクラやモミジの木が、マツとともにこの地を彩っています。離宮の高台から京都市内やその周辺が見渡せます。京都博覧会の期間中、一般公開されました。京都の郊外の最北東に位置しています。

21. 下鴨

修学院の南、鴨川の堤防にある下鴨神社は天武天皇によって創建され、玉依姫を祀っています。興味を引くものが大変多く、半時間ほど気持ちよく過ごせる場所です。

22. 銀閣寺（銀で覆われた寺）[80]

慈照寺とも呼ばれ、大文字山のふもとにあります。庭園が一番の見どころで、その時代最も素晴らしい造園師であった相阿弥がデザインしたそうです。銀閣寺は 13 世紀に、将軍足利義政の命によって禅僧の夢窓疎石が創建しました。洗月泉という小さな滝と、庭園の一番端にあるツツジの丘はとても美しくお勧めです。4 つの石橋と将軍への貢ぎ物であった変わった形の石はあちらこちらにあり、一見の価値があります。数年前までは、銀閣寺はもっと絵のように美しい場所でした。しかし 1490 年の将軍の死以降、寺やほかの建物などが禅僧たちの手に渡ってから、財政的に貧しくなりました。僧たちは今や乞食同然に落ちぶれ、この興味深い場所は次第に寂れていくままです。

23. 若王子

とても美しく、暑い季節には涼しい場所です。岩の多い東山の渓谷にあります。小さな 3 本の滝が上下に続き、上の方の滝は大きなフジの花々で覆われています。

24. 知恩院

浄土宗の円光大師が 12 世紀に創建しました。円山公園の麓、祇園の東側にあります。知恩院境内の上方の、大きな四角形の土地の中心に本堂[81]はあります。境内の下方から伸びた長い参道には、3 基の門があります。浄土宗の僧たちはこの参道に沿った小さな塔頭で暮らしています。各々の寺で庭の木々を育て、独立した環境で境内の中で修行しています。寺に続く大きな三門は、素晴らしい建築物です。三門は寺の入

口であり、高さは 150 フィート[82] になります。急な階段を上ると、複数の仏像を安置する長い部屋があり、それぞれの仏像が人々の煩悩を個々に示しています。降りる前に回廊を一周廻り、そこから見える絵のような景色を楽しんでください。伝説では円光大師は祈りに応じてこの世に生れ、その時代最も学識のある人になった、という美しい伝説があります。これは『アラビアンナイト』の中に出てくる、美しい寓話の中に良く似たものがあります。円光大師の墓は立ち寄る価値があります。本堂の裏手にまわると、知恩院の屋敷[83] があります。1872 年開催の京都博覧会はここでありました。当時外国人の宿泊施設であったところが、知恩院の建物の張り出した所から見下ろせます。

京都の不思議の 1 つである、知恩院の大きな梵鐘は必見です。将軍塚へ向かう道沿いにある本堂の南東にあります。高さ 18 フィート[84]、直径 8 フィート[85]、厚さは 9.5 インチ[86] の大きさで、御忌祭[87] の時のみ音を響かせます[88]。

25. 円山

美しい風景や素晴らしい眺望が好きな人は、知恩院の裏手にあたる円山の丘に上ると良いでしょう。休日には数百人もの地元の人達が、丘に点在する茶屋を利用して、それぞれの余暇を楽しんでいます。

茶屋はサクラやカエデが植えられた庭園に囲まれています。人々は美しい花々の色や、かぐわしい花の匂いを楽しみます。

26. 御所

東西は寺町通と室町通り[89] の間、南北は今出川通から丸太町通の間が、天皇家の敷地です。昔はもっと大規模でした。建物は主要な建物類と多数の小建物によって構成されています。

27. 宮城－実際の御所

大宮御所は博覧会の開催地でした。皇后、皇族の住まい、‘Koku-san-no’ 御殿である皇太后の大きな住まいがあります。それに加えて公家とその他宮廷に勤める人々の屋敷や家があります。宮城は高い塀に囲まれ、格式高い重要な門が 3 基あります。南門と呼ばれる南の門は帝に対してのみ開けられます。西の門は宮廷に集う公家のための公家門、訪問者のために開かれる太陽の門という意味の日の門が東側にあります。京都在住の人から聞いた話では[90]、初めての参観ならば、次のルートで見学するのが良いそうです。それは内侍所、紫宸殿（儀式を執り行う所）、清涼殿、小御所、御学

問所、御三間、御常御殿、建春、泉殿、聴雪、御馬場（競馬場）[91] の順です。内侍所では刀、水晶と鏡[92] といった天皇の象徴である宝が保管されています。紫宸殿では水彩画をじっくり鑑賞します。紫宸殿の北東には小御所があり、帝が将軍や大名に接見しました。御学問所は帝が学ぶ所です。美しい絵画と金箔が押された屏風をご覧ください。御三間はその隣にあり帝が位の高い女性と会った所です。御常御殿は天皇の日常生活の場でした。帝が地震を避ける為の低い建物である泉殿、娯楽のための部屋である迎春、などがあります。北に歩くと天皇の競馬場が見えます。外国人はその競馬場の西にある皇后御殿には入れません。宮城の南の門に方向を変えると、以前は薩摩藩反乱の際に官軍の総大将であった有栖川宮の居宅が現在は司法省になっています。

外国人に許されている観覧コースはみなとても魅力的です。壮麗な絵画、装飾、彫刻は称賛に値します。

28. 桂宮御殿

桂宮御殿は桂川（蔓草の川）[93] の堤防沿いにあります。今上天皇の叔母の避暑のための邸宅でした。1878 年の博覧会では一般公開され、最も人気のある場所の一つでした。

29. 勧業場の織工場[94]

河原町の角倉了以の屋敷跡に立派な新築の準洋式建物が建てられ、綿や絹製品が製造されています。大量の絹製品がアメリカに輸出されています。警察、兵士の制服がここで製造されています。隣接した庭園は、京都の中でも特に美しいものの 1 つです。

30. 急流下り[95]

京都を観光する人達にとって、亀山（亀の山）[96] から大堰川の急流を下る旅は大きな楽しみです。大堰川の野性味あふれ絵のように美しい景色に、これ以上ないほど楽しい気持ちになります。亀山は京都より 6 里離れた丹波地方にあります。亀山は大名が治める重要な城下町でした。城は 2 年前取り壊され、堀とわずかに石の城壁が残されるのみです。訪問客は京都で人力車を雇うと便利です。人力車は亀山まで全行程乗れるよう京都で手配できますが、途中 2 か所だけ険しい丘のみ徒歩で上ります。沓掛は京都から亀山への道にあります。その道中の数マイルはとても美しい景色が楽しめます。もし一行が大勢なら、沓掛で人力車を降り、その後の旅程は徒歩で行うことをお薦めします。そうすることで、急流下りの舟には邪魔になる、大きな人力車を積むた

めの余分な舟賃が不要となります。しかしこの場合、車夫には嵐山（嵐の山）[97] に人力車を回送するように言い、自分達の乗った舟を待つようにすると便利です。というのは嵐山ではすぐに拾える人力車は少ないのです。勿論十分な人数の苦力[98] を手配し、必要な荷物を持たせることが必要です。亀山に到着後、茶屋が並んでいるのでそこで昼食を取ることが出来ます。又は沓掛から亀山まで歩かなかった場合、船を雇ったあと、人力車を積み込めるようにしたのち、持参した軽食を食べることもできます。舟を雇うのに一番良い場所は、古城址の前にある乗船場です。もう少し下流で乗り込むと、乗船後すぐに急流にあたってしまい、徐々に急流に遭遇する楽しみが奪われるからです。急流下りにかかる時間は 1 時間 45 分の時もあれば 2 時間 15 分かかる時もあります。水量が多い時は早く進みます。舟は大体長さ 40 フィート[99] で横幅 7 から 8 フィート[100] あります。最初の 1 マイル[101] は広々とした所を徐々に下り、峡谷が狭くなり、ごつごつした岩が全方向に見えるところでは急流になり、舟は速度を速め流れに沿って進みます。舟を操るのに船頭は 2 人のみです。一人が竹の棹を持って船首に、もう一人がオールをもって船尾にいます。次第に川は激流となり、舟はそびえたつ岩に向かって突進し、今にも木っ端みじんになりそうな危険をはらみながら進みます。しかし船頭たちの賢明なかじ取りのおかげで危険はすべて回避され、乗船客は安全に嵐山の静かな流れの船着き場に到着します。

峡谷の壮大さとこの地方の自然美は言葉にならないほどです。必ずご覧になることをお薦めします。女性の皆さん、この急流下りを怖がる必要はありませんよ。今までに事故があったかどうか、聞いたことはありません。嵐山から京都までは人力車で 1 時間ほどかかります。

31. 東福寺

東福寺は三十三間堂に近く、13 世紀に鎌倉の寺に居住したこともある将軍、藤原頼経によって建てられました。境内は塀に囲まれており、本堂にはインドの神である釈迦が祀られています。境内の美しい参道と、壮麗な庭園に人気があります。

32. 泉涌寺

東福寺訪問の次は、1238 年以降天皇と皇后が葬られている般舟三昧院と泉涌寺を訪問すると良いでしょう。現在の帝の父である孝明天皇が、ここに葬られた最後の天皇です。これらの寺は元々 553 年頃創建されました。その後建物が一部損なわれましたが、公家出身の大変聡明な僧、月輪（がちりん）大師[102] が再興しました。月輪の

自伝によると、彼の人生はとても興味深いものでした。早くから学問を始め、中国に留学し 13 年もの間、天台宗、真言宗、律宗など学問を極めました。人々の多くが月輪は死後生まれ変わり、‘Shijonoin’ という名で王位に就くと信じています。この天皇[103] の墓は蓮華王院の南東にある小さな渓谷にあります。訪問するに値する居心地の良い静かな場所で、行って良かったと思える場所です。

33. 宇治

この地域は、日本における最高品質の茶の生産で有名です。最上級の茶は推定樹齢 500 年の木から収穫されました。最初の茶摘みは 5 月に始まり、2 番茶は 6 月です。この茶摘みの時期には、数百人の人達がこの美しく興味深い土地にやってきます。菊屋という一番お薦めの宿屋では、とても美味しい茶を飲むことができます[104]。

34. 奈良[105]

古都である奈良は、絵のように美しく素晴らしい森林に囲まれています。ここでは楽しみがいっぱいありますし、人に慣れた鹿が多数丘にいます。鹿たちは春日大社(春の朝ー神の名前)[106] の守護神と信じられているので、誰も危害を加えることはできません。その昔、鹿を殺したものは皆死罪となりました。主な奈良観光の名所の一つは、銅の仏像である大仏です。日本で最大の像です。像の大きさは鎌倉の部分で述べました[107]。こちらには知恩院の梵鐘と同じ大きさの大鐘があります。大仏の前にある石灯籠の灯りはセイロンから運ばれ、今まで消えたことがないそうです。奈良へは伏見経由の快適な道を通ります。伏見から奈良へは 6 里[108] あります。

35. 琵琶湖

琵琶湖は京都を東に 3 里[109] の距離にあります。湖岸からは美しい景色と、興味深い場所がたくさんあります。京都を十分観光したなら、長距離ですがぜひご訪問ください。琵琶湖とその周辺は、文字にできないほど魅力にあふれた美しい景色が広がっています。

大津は京都から来た観光客が初めて立ち寄る街で、湖を俯瞰できる高台にあります。1200 年前には天智天皇と弘文天皇[110] という、2 人の天皇の宮廷と首都がありました。現在 10,000 人の人口があり、居心地の良い宿泊所が多数あります。大津から 1 里（約 9 キロメートル）少しのところに湖から川が流れ出る所、石山（石の山[111]）があります。その頂上からの景色は素晴らしいです。その近くには粟津と瀬田があり、木製の橋で結ばれています。唐崎は大津の東にある景勝地で、大きな松の木が水

上に枝を伸ばしています。その松の木は、300 年以上の樹齢だそうです。彦根の市街は最近重要になってきました。それは小型蒸気船が湖を往復し、唐崎港から彦根港に就航しているからです。

大津と敦賀は湖経由で約 30 里[112] の距離です。小型蒸気船が塩津に向けて毎朝 9 時に出発し、午後 4 時に到着します。この距離は 23 里[113] です。そこから敦賀までの旅の残りの部分は人力車の利用になります。

注

1　Massachusetts Institute of Technology.（2008）. Visualizing Cultures. ウェブサイトのアドレスは、https : //visualizingcultures.mit.edu/gt_japan_places/tg_01.html である。

2　京都博覧協会（1903）「京都博覧会、京都博覧協会創立の概略」『京都博覧会沿革抜粋』。

3　初版は Yamamoto, K.（1873）. *Celebrated Places in Kiyoto & the Surrounding countries for the Foreign Visitors,* Kyoto : Niwa. である。覚馬名所案内は好評のうちに複数回改版増刷され、発行年は 1873 年のままであったが、1877（明治 10）年の鉄道開通頃には、タイトルが *The Guide to the Celebrated Places in Kiyoto & the Surrounding Places for the Foreign Visitors* に変更されたことが確認されている。小嶋正亮（2019）の論考に詳しい。

4　‘Keeling’s Guide to Japan, Yokohama, Tokio, Hakone, Fujiyama, Kamakura, Yokoska, Kanozan, Narita, Nikko, Kioto, Osaka, Kobe &c., &c., Together with Useful Hints, History, Customs, Festivals Roads &c., &c., with Ten Maps, Fourth Edition, Revised and Enlarged by A. Farsari［Second Issue］, Yokohama, A. Farsari for sale by Kelly & Walsh Limited’ である。

5　長坂契那（2010）はこの ‘Some good guides have already appeared in print, such as the Guide to Yokohama, guide to Tokio, guide to Kioto, etc. ; ’ の文章から、その京都ガイドブックとは覚馬名所案内を指している（長坂、2010 : 106）、と述べた。

6　原文は ‘enjoy natural and artificial splendor’ である。

7　覚馬名所案内の序文にも、海外からの参観者の方に向けて、「この小さな本（this little work）（千代間泉、2020 a : 60）」であるガイドブックを持って、京都の名所をもらさずめぐり、土産話を持ち帰ってください、とある。覚馬名所案内におい

ても、持ち運びやすいサイズと重量、見やすいコンパクトな本を目指した興味深い類似点があった。

8 「京都」の綴りは ‘Kioto’ であり、覚馬名所案内の ‘Kiyoto’ と異なる。

9 原文は ‘Saikio,（Western Capital）’ である。

10 原文は ‘an exaggerated account of the importance and population of Kioto’ である。

11 原文は ‘over one million houses and two millions of inhabitants,’ である。

12 原文は ‘Shinto Temples’ である。

13 原文は ‘girls and women of pleasure’ である。

14 『京都の歴史 8』によると「京都市統計書」の調査で明治 22 年（1889）にはじめてはっきりとした人口がわかり、戸数または世帯数 63,682、人口は 279,165 人であった（京都市、1971 : 16）。キーリングの著者が何を先行文献としたかは調査中である。

15 原文は ‘the Tenshi（Sons of Heaven）or Emperors’ である。

16 原文は ‘Kuwanmu Tenno, the 50th Tenshi’ である。

17 現在の京都市の面積は 827.8 平方キロメートルである。宮城の広さとの関連は不明である。

18 現在の御所の位置と思われる。

19 原文は ‘Shippokaki’ である。

20 KG では「どの訪問者も一日は十分な時間を取って窯元や刺繍業者に見学に行くべきだ。」が追加されている。

21 東海道の宿場町と推薦する旅籠、距離が東京方面から示されている。

22 田中泰彦『都の魁（上）』1971 年、84 ページにある。所在地は「八坂神社大鳥居前」であった。

23 田中泰彦『都の魁（上）』1971 年、85 ページにある。所在地は「洛東円山」である。

24 原文は ‘Guides（annisha）’ である。

25 千代間は 2020 年 5 月 18 日、実地調査を行い、円山公園から将軍塚展望台までの道のりを徒歩でたどった。所要時間は約 40 分、道の状態としては、現在は日常的に使われていないため、木々が生い茂り、途中湿って崩れかかった石段の道があったが、疲労のため登ることが困難な坂道ではない、という感想を持った。

26 『改訂増補山本覚馬伝』（1976）によると、舎密（セイミ）局は、「京都最初の化学研究所」として、理化学の講義、実験を行い、同時に「薬剤、石けん、氷糖、ラムネ、レモナーデ、陶磁器、七宝、ガラス、漂白粉、銀朱、石版術、写真術、ビールなど」の文明開化を象徴した製品を生産販売した。（青山、107-109）

27 染殿、織殿は京都織物会社の前身。「府は西陣その他の織物業者を刺激奨励して、その事業を改良進歩させるため、平安朝にあった織殿染殿の模範工場を起こした」（青山、前掲書、112）

28 舎密局の一部である。

29 原文は ‘Kioto Bazaar’ である。集産場は「京都のすべての名産品が陳列されて人々に縦覧（青山、前掲書、106）」された場所であった。

30 原文は ‘the Silk Weaving Department’ である。

31 原文は ‘Tokio’ である。

32 原文は ‘“Bon” fires’ である。

33 原文は ‘attend’ である。

34 明治時代の西洋人による英文ガイドブックから、現在は失われた意匠の存在がわかる事は大変興味深い。現在は失われた送り火の場所について、佐和隆研／［ほか］編（1984）『京都大事典』p 583～584【大文字五山送り火】項に「享保 2 年（1717）の「諸国年中行事」には市原の「い」，鳴滝の「一」が載る。さらに西山には「竹の先に鈴」，北嵯峨には「蛇」，観空寺には「長刀」があったという」とある。京都の代表的な祭の 1 つは祇園祭であるが、TG には描かれていない。その理由として、TG の出版前年の 1879 年の夏はコレラ蔓延のため、祇園祭鉾巡行は実施されなかったので、観られなかったことが推察される。

35 原文は ‘the Torii or portal’ である。

36 原文は ‘the Shogun Minamoto Yorie’ である。

37 原文は ‘Nowat’ である。

38 陀羅尼の鐘と思われる。「修行僧が寝につく亥の刻（午後 10 時）過ぎ、観音慈救陀羅尼を一万返唱しながらつくことから、この名がある。開山在世のとき、鴨川の七条の下流、釜ヶ淵に沈んでいた源融（みなもとのとおる）の旧物を「えいさい」「ようさい」と、開山の名を呼びながら引き上げたという伝説がある」。（建仁寺（2008）「建仁寺境内図」https : //www.kenninji.jp/grounds/ 最終閲覧 2020 年

11 月 13 日）

39 原文は ‘geisha’ である。

40 当時女性の教育施設については、新英学校及女紅場と遊郭の女紅場があった。「明治 5 年 10 月、遊女解放令が出され、芸者や遊女をここに強制入社させ、裁縫手芸を教え他の職業につかせようとした（青山、1976 : 89）」場所である。

41 原文は ‘The Daibutsu-（Great Buddha）’ である。

42 約 48.77 m である。

43 原文は以下の通りである。‘We are told that it measured 160 feet.’

44 約 19.2 メートルである。

45 約 7.32 メートルである。

46 約 30.48 センチメートルである。

47 原文は ‘by the character 文（bun）’ であるが、これについては調査中である。

48 現在の傘亭と思われる。

49 原文は ‘karakasannochin’ である。

50 原文は ‘Senju Kuwanon（the god of one thousand hands）’ である。

51 この 33,333 体という数字から、TG が江戸時代の西洋人旅行記の誤情報を参考にした可能性が窺える。例えばシーボルトによる『1826 年の江戸参府紀行』を全訳した斎藤信は、シーボルトが記した 33,333 という数字について「ケンプッァー以来の誤りで、33,033 でなければならない」と注で述べた。TG が参考にした古い西洋人文献については、別稿を用意する。

52 約 2.44 メートルである。

53 白幡洋三郎によると、明治期の三十三間堂の手前に池か湿地のようなものを確認し、また「手前の池も、地下の防火水槽に変わった。境内の変わりようは著しい」（2004 : 96）と述べた。

54 『都花月名所』の燕子花の項目には「大佛　洛東　蓮華王院の堂前池中に多し毎年大矢数の時節殊に花盛なるべし（新修京都叢書刊行会（編著）、1968 : 579）」とある。

55 清水寺については、京都の国際観光の発展を調査する上で、大変興味深い数字の書込みがあった。覚馬名所案内の初期と後期の版からは、清水寺参拝者数からの増加が、2～30 人から 100～200 人と記述された（千代間泉、2020 b : 68）。TG で

は 1 日につき、という記述がないので比較はできないが、それでも「数千人」という数字は注目に値する。

56 原文では ‘picturesque’ である。長谷川雅世はイギリス人旅行記の調査で特別中の特別な寺社の一つに清水寺を挙げ、そこから見渡せる「京都の自然美がどれほどイギリス人旅行者を魅了していたのかが窺える（長谷川、2015 : 196）」と述べた。

57 原文は ‘goddess’ である。

58 原文は ‘Seisuiji’ である。

59 原文は ‘escape from danger’ である。

60 記述内容から地主神社である。TG の京都記述部分の中で、はじめて ‘shrine’ という語が宗教施設の神社を表す単語として使われた。現在、日本の寺が ‘temple’、神社が ‘shrine’ と区別して呼ばれる最も初期の頃だと考えられる。

61 原文は ‘the pieces of paper must be tied with the thumb and little finger of one hand’ である。

62 原文は ‘traveller’ である。

63 原文は ‘the Megane Bashi（Spectacle Bridge）’ である。

64 東福寺　善慧院（明暗寺）については、東福寺塔頭・善慧院の公式ホームページ http : //tofukuji-zennein.com/pg65.html を参照されたい。

65 門跡と思われるが皇室とのつながりについては不明である。

66 原文は ‘the Komusho（wandering minstrels）’ である。虚無僧はオールコックが『大君の都』においてイラストで描いたように、西洋人が興味深く思った職業の一つと考えられる。

67 中西直樹の調査によると、当時東本願寺は日本政府と協調してキリスト教の防止策を展開しており、そのため 1876 年には上海別院を開き、毎日のように中国語による現地人対象の布教を行ったようである。（2013 : 111）

68 原文は ‘SHINSENYEN-（Holy spring’s Garden）’ である。

69 原文は ‘the priest Keijun’ である。

70 原文は ‘Isanami’ である。

71 原文は ‘Hono Musibi Mikoto’ である。

72 （　）内の原文は ‘Silk Hat Mountain’ である。

73 （　）内の原文は ‘Gold-covered Temple’ である。

74 TG の京都記述部分の中で、寺社仏閣の拝観料が書かれているのは金閣寺のみである。KG ではこの部分は省かれている。当時の 1 円の価値については、色々な数字が挙がり一概には言えないが、例えば三菱 UFJ 信託銀行株式会社のホームページ内のコラムによると「当時の 1 銭が現在の 200 円の価値と同じ（https : // magazine.tr.mufg.jp/90086#　最終閲覧 2020 年 9 月 7 日）」としている。そうすると金閣寺拝観料は約 500 円である。

75 （　）内の原文は ‘who expects a trifling fee’ である。

76 原文は ‘Shinto temple’ であり、現在一般的に神社を指す ‘shrine’ ではない。

77 原文は ‘horse races, called Keba’ である。

78 天皇については原文では ‘tenno’ である。

79 後の清和天皇である。

80 （　）内の原文は ‘Silver-covered Temple’ である。

81 原文は ‘monastery’ である。

82 約 45.7 メートルである。

83 原文は ‘yashiki’ である。

84 約 5.49 メートルである。

85 約 2.44 メートルである。

86 約 24.1 センチメートルである。

87 原文は ‘Giyoki’ である。

88 現在の御忌大会は 4 月、除夜の鐘も有名である。

89 公家町であると思われる。規模についてはほぼ京都御苑を指しているが、現在の京都御苑の東西は寺町通と今出川通である。

90 原文は ‘A resident of Kioto tells the compiler that’ である。京都在住の日本人か在住西洋人であるかは不明であるが興味深い。この部分は KG では削除されている。

91 原文は ‘Obaba（Race Course）である。’

92 原文は ‘looking-glass’ である。

93 （　）内の原文は ‘Creeping-vine River’ である。

94 初版にのみ名所として単独で挙げられている。KG には京都を俯瞰した記述部分

にしか登場しない。

95 原文は ‘The Rapids’ である。保津川遊船企業組合（n.d.）によると、この保津川下りは「明治の 28 年頃から、遊船として観光客を乗せた川下りがはじまった」（https : //www.hozugawakudari.jp/about 最終閲覧 2020 年 12 月 17 日）。西洋人の保津川下りが、いつ商業的な観光行動として始まったのか、また TG が、英文で保津川下りを紹介した初のガイドブックであった可能性については調査中である。川の名称については、TG は「大堰川」を用いている。

96 亀山は現在の亀岡である。（　）内の原文は ‘Tortoise Mountain’ である。

97 （　）内の原文は ‘Wild Mountain’ である。

98 原文は ‘coolie’ である。

99 約 12.2 メートルである。

100 約 2.1 から 2.4 メートルである。

101 約 1.6 キロメートルである。

102 原文は ‘Gazen’ である。月輪大師、悛芿（がちりんだいし、しゅんじょう）と考えられる。

103 原文は ‘The grave of this Emperor’ である。

104 TG には平等院についての言及がないが、KG には、1 行記述がある。

105 奈良は京都記述部分の 1 つとして挙げられた。

106（　）内の原文は ‘Spring Morning-the name of a god’ である。

107 鎌倉の「大仏」の項に、奈良と鎌倉の大仏の大きさの比較があるので、表 1 に示す。

表１　奈良と鎌倉の大仏における大きさの比較表

大仏	奈良	鎌倉
身長	53 フィート 6 インチ （約 16.31 メートル）	50 フィート 0 インチ （約 15.2 メートル）
顔の長さ	16 フィート 0 インチ （約 4.88 メートル）	8 フィート 6 インチ （約 2.6 メートル）
耳の長さ	8 フィート 6 インチ （約 2.6 メートル）	6 フィート 6 インチ （約 1.98 メートル）
鼻穴の横幅	3 フィート 0 インチ （約 91.4 センチメートル）	2 フィート 3 インチ （約 68.6 センチメートル）
口の横幅	3 フィート 8 インチ （約 1.12 メートル）	3 フィート 3 インチ （約 99.1 センチメートル）

（出所：TG 57 ページの記述から筆者作成）

108 約 23.6 キロメートルである。

109 約 11.8 キロメートルである。

110 大友皇子である。

111（　）内の原文は ‘Stone Mountain’ である。

112 約 117.8 キロメートルである。

113 約 90.3 キロメートルである。

参考文献

青山霞村（1976）『改訂増補山本覚馬伝』住谷悦治校閲、京都ライトハウス。

伊藤久子（2009）「研究余話：旅行ガイドブックの著者キーリング」『日本英学史東日本支部紀要』8、71-73 ページ。

京都市（1971）『京都の歴史 8』京都市史編さん所。

京都博覧協会（1903）「京都博覧会沿革抜粋」。

小嶋正亮（2019）「英文京都案内『CELEBRATED PLACES IN KIYOTO & THE SURROUNDING COUNTRIES FOR THE FOREIGN VISITORS』について」『宇治市歴史資料館年報平成 29 年度』1-33 ページ。

白幡洋三郎（2004）『幕末・維新彩色の京都』京都新聞出版センター。

新修京都叢書刊行会（編著）（1968）「都花月名所完」『新修京都叢書第 5 巻』臨川書

店。
田中泰彦（1971）『都の魁（上）』京を語る会。
千代間泉（2020 a）「［資料翻訳］山本覚馬著英文『京都とその近郊の名所案内』（1873）」『同志社女子大学大学院紀要』20、55-79 ページ。
千代間泉（2020 b）「日本初の英文京都ガイドブックの制作背景と改訂についての研究」『日本国際観光学会論文集』27、63-71 ページ。
長坂契那（2010）「明治初期における日本初の外国人向け旅行ガイドブック」『慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要』69、101-115 ページ。
中西直樹（2013）「明治前期・信州大谷派の海外進出とその背景－北海道開拓・欧州視察・アジア布教－」『龍谷大学論集』481、87-128 ページ。
長谷川雅世（2015）「明治時代の京都でのイギリス人旅行者の神社仏閣めぐり－イギリス人の旅行記に描かれた京都の特別な寺々－」『高知大学教育学部研究報告』75、191-202 ページ。
山口光朔（訳）（1997）『大君の都（上）オールコック著』岩波書店。
ユネスコ東アジア文化研究センター（1975）『資料御雇外国人』小学館。